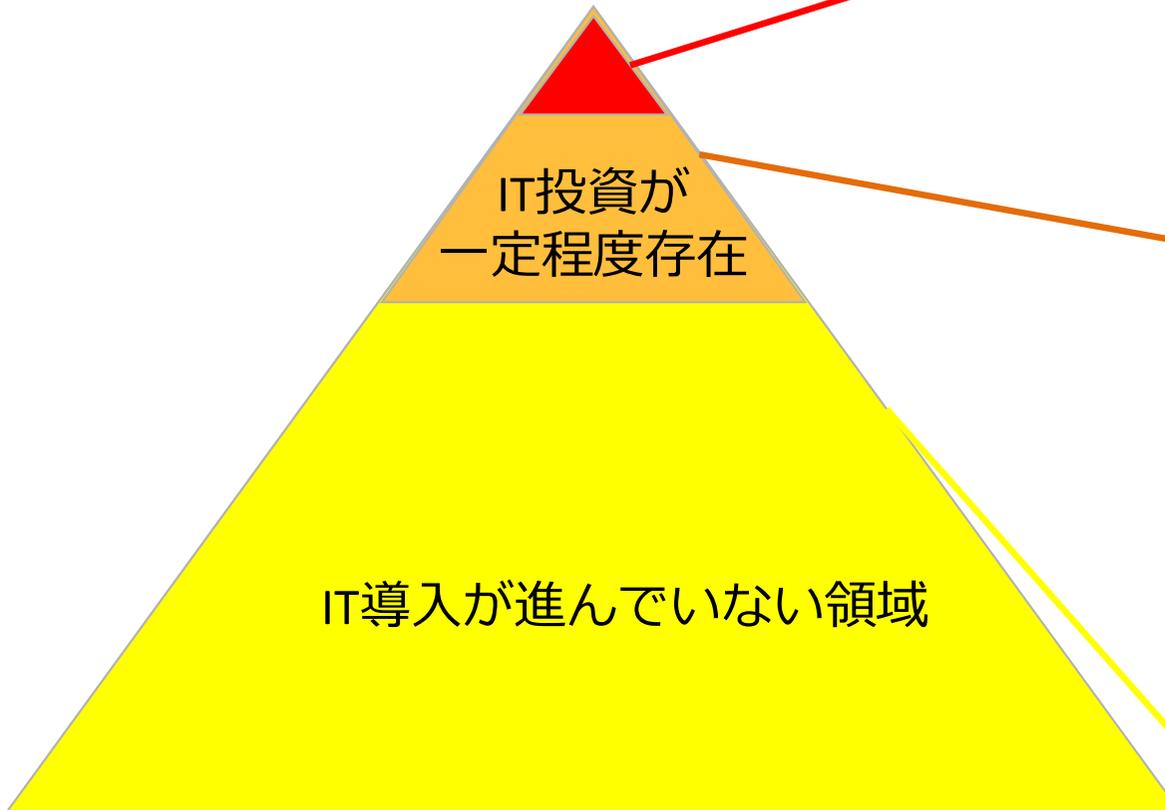


第 1 回の議論について

平成 2 9 年 4 月

中小企業庁

企業規模ごとのIT利用の状況と主な課題のイメージ



ITを事業部門でも十分に利活用し、収益につながっているトップ層。
第四次産業革命の対応が課題であり、**IoT、人工知能のツール化が必要。**（→第3回）

企業組織が大きめであり、オンプレミス型を中心にITシステムを整備。クラウド型にも関心。
BPRを詳細に実施するとともに、ITシステムの作り込みや、IT人材の確保やCIOの育成が課題に。ITコーディネーターが得意とする分野。（→p.2）

企業組織が大きくなく、パソコンそのものを使っていない場合もある。
「IT導入が進んでいない」というよりも、むしろ、「合うサービスがなかった」状態ではないか。
簡便なクラウドシステムに合わせて、業務を見直す形で、簡易なBPRを実施。
効果的なシステムの導入の見える化、支援機関とIT事業者との連携関係の構築に課題。
（→p.3）

(1) 「IT投資が一定程度存在」における課題 (p.1のオレンジ色部分)

○電化皮膜工業株式会社から、製造業（アルミ表面処理、めっき化工）におけるIT化の事例について、コマースリンク株式会社からEC事業者へのサポート事業の事例について紹介。

○電化皮膜工業の事例

- ・紙の山となっていた見積情報のIT化を実施。
見積もり作成、指示書、出荷管理についてIT化。
見積もりは、顧客への回答の迅速化。指示書と出荷管理により、状況の把握。
今後は、センサを使いIoTを導入して、製造プロセスの管理を進め、詳細の把握を進める。
- ・プロセス単位でのカイゼンを積み重ねて、最終的に全体最適を図ることが重要。
すべてをIT化する必要がある訳ではない。
- ・ITコーディネーターなどの外部専門家の活用化が重要。人材育成にコストがかかるが、経営者として必要性について理解することが必要。

○コマースリンクの事例

- ・EC事業者へのサポートを行う。3000~4000万のアイテムを扱っている。
- ・ITの企業ではあるが、社内の管理システムの構築には大きな課題があった。
- ・会計・給与については、当初外注していたがCFOを採用することで社内処理化へ。
- ・販売管理業務については、既存のパッケージを用いていたが、請求書について、Excel、スタンドアロン型の請求書、手書き（最終的には6割）と混在し、チェック業務に時間を要していた。
- ・業務に精通する社内外のエンジニアへの橋渡しができることが重要。

(2) IT導入が進んでいない領域における課題 (p.1の黄色部分)

- 中小企業として、株式会社加賀屋が導入事例を説明。
- 商工会・商工会議所による中小企業に対する会計システム等の導入支援事例を説明。

○導入事例

- ・予約＋POSレジ＋会計（請求書）＋給与、マイナンバー（株式会社加賀屋の事例）
- ・クラウド会計＋レジアプリ（松浦商工会議所の事例）
- ・記帳指導や創業支援者に対してクラウド会計の導入支援（宮崎商工会議所の事例）
- ・ポスレジ＋クラウド会計の導入支援（石央商工会の事例）
深夜に精算レシートを確認する必要がなくなった。
外出先でもiphoneを使いながらリアルタイムで他の店舗を確認。

○主な課題

- ・中小企業（株式会社加賀屋）から見た課題
 - ①オンサイトでの支援、②クラウド導入人材を増加（多くのクラウドサービスへ対応できること）。
- ・日本商工会議所から見た課題
 - ①経営指導員の最新クラウドツールの知識やマンパワー不足、②中小企業のITリテラシー不足、クラウドツールへの懸念の払拭（データ保存、セキュリティ、解約時のデータ）、③どのIT事業者やIT支援人材が優良なのかが不明（IT導入補助金でも同様の指摘）。
- ・全国商工会連合会から見た課題
 - ①クラウド導入の意味に関する中小企業・小規模事業者への普及啓発、②導入ターゲットのセグメント分け、③第三者的なアドバイザーの存在。

IT導入支援の枠組みのイメージ（前回資料5の引用）

- ITベンダー、IT支援組織による中小企業の生産性向上の実績の見える化
（利用者からフィードバックを受けるインセンティブを設けることで、より良いサービス提供を行うためのインセンティブ作り）
- ITベンダー、IT支援組織の事業の継続性やセキュリティ対策の見える化
- 中小企業支援機関との連携関係（ITベンダーとの連携等によるBPRの支援を含む）

